

第3回

平成16年5月27日(木)午後2時～4時

大久保地域センター

合澤委員・金澤委員・鈴木委員

管理課長・副参事(少子化対策計画担当)

児童家庭課子育て支援係長・保育課入園係主査

参加者7名(男4・女3)



計画に対する意見・提案

計画全体

子どもが少ないのは、子育てが大変だからで、親にだってできない事があるのだから、できないことは私たちがサポートしてひとりでも多くの子どもを産んでもらえたら出生率も上がるのではないかと思う

情報

計画の策定協議会に保育園関係者が入っていないのはなぜか。

掲示板・回覧版を利用して情報を伝えたらどうか。

虐待防止

地域で幼稚園にも保育園にも通っていないで悶々としている保護者のフォローが必要。

子育てのストレスが虐待につながる事がある。

調査で子育てが辛いと答えた人の辛い原因を知りたい。

ひとり親家庭への支援

計画書に母子家庭・父子家庭・ひとり親家庭という表現があるが区別する理由はあるのか。

父子家庭の場合、保育施設が整っていないと子どもと離れ離れになることが多いので、24時間保育の保育所が多くなってほしい。

きめこまやかな支援

ファミリーサポートセンターの使い勝手が悪いので改善してほしい。

地域との協働

地域との協働といいながら特定の個人に負担を掛けていないか。

外国人家庭への支援

外国人への対応が十分か。

外国人との交流に力を尽くしている団体や外国人に公的な支援が必要か検討すべき。

新聞をとっていない家庭が増えているので、広報だけでは情報は伝わらない。また情報誌等は外国語版もつくるべき。

多様な主体による運営

公立園の民営化の理由として、硬直化やコストがいわれるが、それほどとは思えない。今ある施設・人材に自信をもって活用してほしい。

庁内の連携

学童クラブと学校の連携は十分できているのか。

その他

計画について意見を持っている人は多いので、保育園の父母の集まりや、地域にでて懇談会を開催してほしい。

大久保地域について

外国人が多い。

生活時間が深夜におよぶ住民が多い。

策定協議会委員の意見・提案

必要な人に必要な情報が届いていない現状があるようだ。

外国人との交流に力を尽くしている団体や外国人に公的な支援が必要か検討すべき。